

防災の先頭に立つ元自衛官

ぴーふる

「関東・東北豪雨」による鬼怒川水害から2年たった常総市の防災対策の先頭に立つのが、市危機管理監の溝上博さん(56)だ。10日に開かれた防災イベントでは、自主防災組織の必要性を訴えた。市内215自治区のうち、防災組織を結成したのはまだ102。市も養成している防災士に、防災活動を広めるサポート役を期待している。

陸上自衛隊でヘリコプター部隊を率いた。水害時も陸自の航空学校宇都宮校で、被災者を救出する操縦教官らの部隊の指揮

常総市危機管理監

みぞかみ ひろし
溝上 博さん(56)

所に詰めた。「ヘリが飛び交う中で、市街地は電線が多くヘリのローターで引っかけける危険があり、緊張した」。定年後の昨年9月、市に採用された。

毎朝、登庁1時間前には出勤して、ネットなどで気象データを集める。課員がそつくと、ホワイトボードの前でその日の気象情報をレクチャーするのが日課だ。「最近予想外の豪雨が全国

で起きている。自分なりに予測はたてていますが、窓の外で突然雨が降るとひやりとします」

2年前の水害では、市は堤防が決壊した上三坂地区への避難指示を事前に出せずに、8戸が流失し1人が亡くなった。二度と同様の判断ミスがないように市長を補佐する。自衛隊時代の上司がよく言っていた言葉を大切にしているという。「見逃し三振をするな。空振り覚悟で行け」。必ず行動することを心がけています」(三嶋伸一)

